

# 道小だより

第545号

2021年6月

藤井寺市立道明寺小学校

特別支援部

## 「もちあじ」を認め合える集団に

人にはそれぞれ、違い＝「個性」があります。

人それぞれの「個性」がいかされて社会ができています。必要とされていない人などいませんし、誰かが優れていたり劣っていたりするわけでもありません。

わたしたちは、そうした多様な「個性」を持った人たちの中でくらしているにもかかわらず、時として他の人と出会ったときに、違いにとまどったり、違いを恐れたり、違いから逃げたりしてしまうことがあります。まわりと同じでないといけないと思いきこむ子どもたちも多く、自分の個性に自信をなくしていってしまいがちです。

道明寺小学校では、「個性」を「もちあじ」とよんでいます。「もちあじ」とは、その人をつくっているあらゆる要素のことをいいます。好きなこと、きれいなこと、得意なこと、苦手なこと、感情の表し方、身体的特徴、今までの経験など、そのすべてがその人の大切な「もちあじ」と考えます。6年間を通して自分や友だちの「もちあじさがし」に取り組むようにしています。

「もちあじさがし」の第一歩として、まずは自分自身を大切に思い、そして周りの友だちも大切にできることが大事と考えています。友だちを大切にするには、友だちに寄り添い、気持ちを考えていくことが必要です。友だちが困っている姿を放っておかない。そのために、道小では、誰もが使える方法の一つとして、毎年、全学年に、“まほうのこぼ”を伝えています。今年度も1年生の対面式の時に全校の前で伝えました。“まほうのこぼ”とは、「どうしたの?」「大丈夫?」という言葉です。何気ないひとことですが、自然と相手に寄り添う気持ちが表れています。このような言葉が自然に出てくるような子どもたちでいっぱい学級、学校になってくれればと思っています。

人の気持ちを考えるには、日々の様々な出来事を、一緒に笑う、おこる、楽しむなどの気持ちを共有し合える経験が必要だと思います。共有することで、自分の全てを受け止めてもらえるという安心感が生まれるとともに、人の気持ちを考えることにつながるようになると思います。うれしいことがあったときには、抱き合って喜ぶ、つらいことがあったときには共に涙を流すことができます。また、ニュースを一緒に見たり絵本を読んだりしたときなどには、気持ちを想像して感じた思いを伝え合うことができます。例えば、アスリートが苦難の末に偉業を成し遂げたときには、努力や苦勞を想像し、喜びを言葉にして伝え合う。そうやって、思いを伝え合うことが人の気持ちを考えられる子を育てることにつながります。

一人ひとりが、自分と友だちを大切にし、それぞれの「もちあじ」を認められる子どもたちに成長してくれることを心から願っています。